

タイトル「**2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー							
科目名	危機管理学研究演習Ⅳ						
担当教員	安藤 貴世						
対象学年	2年	開講学期	後期				
曜日・時限	時間外						
講義室		単位区分	必				
授業形態	演習	単位数	1				
科目大分類	—						
科目中分類	修士						
科目小分類	統合・演習						
科目の位置付け（開発能力）	■D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP2 [学識・専門技能] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（30%） DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（40%） DP4 [主体性・多様性・協働性] 多様な価値観や立場を尊重しつつ、自らの明確な考えをもとに、他者とコミュニケーションを確立する能力（30%）						
教員の実務経験	2006年から2009年まで3年間、外務省において任期付き職員として勤務し、外交実務を経験しました。 また、2016年より現在まで、法務省難民審査参与員として難民認定審査の業務に携わっています。 これらの実務上の知見と経験を活かし、実際に日本と諸外国との外交関係が形作られていく様子や、現実の国際的な諸問題の解決における国際法の適用などにも触れつつ演習を行います（第2～15回）。						
成績ターゲット区分							
科目概要・キーワード	危機管理学とその基礎となる法学に関する研究活動を実践するために、必要な社会科学的研究手法を学び、学生が自ら研究テーマを設定し、論文を執筆し、成果を発表するための指導を行います。本演習では、危機管理学、法学に関する研究を、修士論文としての形式と実質を備える段階にまで高めるための応用的なプロセスとして、アウトラインの策定と検証、文献・資料の追加収集、成果の分析と評価、論文の推敲を、それぞれテーマ具体的に実施します。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力、更には主体性・計画性・協働性等の汎用的能力を開発することを目的とします。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード： 資料分析、論文執筆、成果プレゼンテーション						
授業の趣旨	■副題 危機管理に関する国際法研究を踏まえた修士論文の執筆、成果の発表 ■授業の目的 危機管理と国際法学に関する社会問題の整理、先行研究の調査等を踏まえ、新規性・有用性のある研究テーマを探索するとともに、これまでの研究を修士論文としてまとめます。さらに成果について発表を行います。これらの学修を通じて、学識・専門技能に加え、意欲・経験・適性・判断力・思考力・表現力、主体性・計画性・協働性といった各汎用的能力を開発することを目的とします。 ■授業のポイント 当科目では、学生による2か年間の自主的な研究活動の第四段階として、国際法学に関する修士論文の執筆・推敲と成果プレゼンテーションを中心に行います。						
総合到達目標	■危機管理学および国際法学に関する問題に対し、強い関心をもって客観的に洞察することができる。 ・危機管理に関わる国際的な諸問題について、実状と法制度を把握・理解したうえで、考察対象として認識することができる（第1回～15回）。 ・危機管理に関わる国際的な諸問題について、自己の経験や目標と関連付け、研究意欲につなげることができる（第1回～15回）。 ■危機管理学および国際法学に関する問題に対し、科学的な手法によって分析することができる。 ・危機管理に関わる国際的な諸問題について、国際法学の理論や概念に基づいて理解することができる（第1回～15回）。 ・危機管理に関わる国際的な諸問題について、国際法分野の関連資料の収集と分析を体系的に行うことができる（第1回～15回）。 ■危機管理学および国際法学に関する問題を論理的に解釈し、その成果を適切に表現することができる。 ・危機管理や国際法に関する資料や学術論文について、用語の意味や文脈を適切に把握しつつ、活用可能な知識として取り込むことができる（第1回～15回）。 ・危機管理に関わる国際的な諸問題について、目的、構成、内容に配慮しつつ、分野固有の規律に従って、口頭または文章によるコミュニケーションを適切にとることができる（第1回～15回）。						
成績評価方法	■授業参加度（15回）60% （評価の観点）学究的な姿勢、計画性や実行力を評価します。 （フィードバックの方法）授業中にフィードバックします。 （適用DP） DP2（30%）、DP3（40%）、DP4（30%） ■研究進捗報告（4回） （評価の観点）学術研究としての水準、プレゼンテーションの技術、配布資料の完成度を評価します。 （フィードバックの方法）授業中に講評を行います。 （適用DP） DP2（30%）、DP3（40%）、DP4（30%）						
履修条件	特になし。						
履修上の注意点	特になし。						
授業内容	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>			回	内容		
回	内容						

1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 ガイダンスの聴講と個別質問により、当該科目の到達目標や授業計画、授業運営や成績評価方法について想起できるようになる（DP-2, 3, 4）。 ③予習（120分） シラバスの内容を精読し、当該科目の学修計画を作成する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、自身の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。
2	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（1） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
3	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（2） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
4	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（3） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
5	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（4） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
6	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（5） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
7	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（6） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。

	③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
8	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（7） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
9	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（8） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
10	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（9） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
11	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（10） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
12	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（11） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
13	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（12） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分）

	ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
14	①授業テーマ 危機管理に関する国際法学的研究の修士論文執筆と成果プレゼンテーション（13） ②授業概要 危機管理と国際法学に関する研究計画に基づき、これまでの先行研究の整理、資料の分析等をさらに深化・発展させる。その成果を報告資料にまとめてプレゼンテーションを行うとともに、ディスカッションを通じて、自身の研究の独自性の検証が行えるようになる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 修士論文執筆に向け、危機管理と国際法学に関する発展的研究を行うとともに、資料作成を含めプレゼンテーションの準備を行う。 ④復習（120分） ディスカッションでの論点や他者の意見を整理するとともに、関連資料の有無を調査し、その結果を指導教員と受講者に報告する。
15	①授業テーマ 授業総括 ②授業概要 授業総括を通じて、当該科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになるとともに、授業参加度のフィードバックを通じて学識・専門技能、意欲・経験・適性、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性に関する気づきや成長について具体例を挙げながら説明することができる（DP2, 3, 4）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 授業ノートと配布資料を読み直し、当該科目を通じて自分が修得した知識・技能・態度を論じられるように準備する。 ④復習（120分） 授業総括および教員からのフィードバック内容を振り返り、自身の修士論文の論理構成、独自性等について再検証する。
関連科目	危機管理学研究演習Ⅰ、危機管理学研究演習Ⅱ、危機管理学研究演習Ⅲ
教科書	教科書は使用しません。毎回、有斐閣の国際条約集を持参して下さい。
参考書・参考URL	授業内で適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に伝えます。 ■オフィスアワー 開講年度のオフィスアワーリストをご確認ください。それ以外の時間帯については、メールで事前にアポイントメントを取ってください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%；パブリックセキュリティ20%；グローバルセキュリティ40%；情報セキュリティ10% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理50%；法学50%

